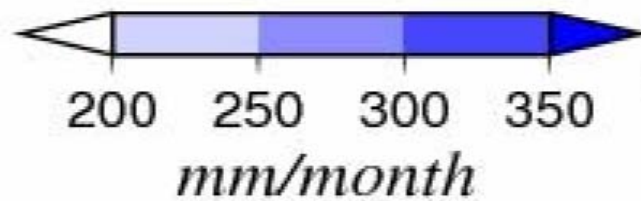
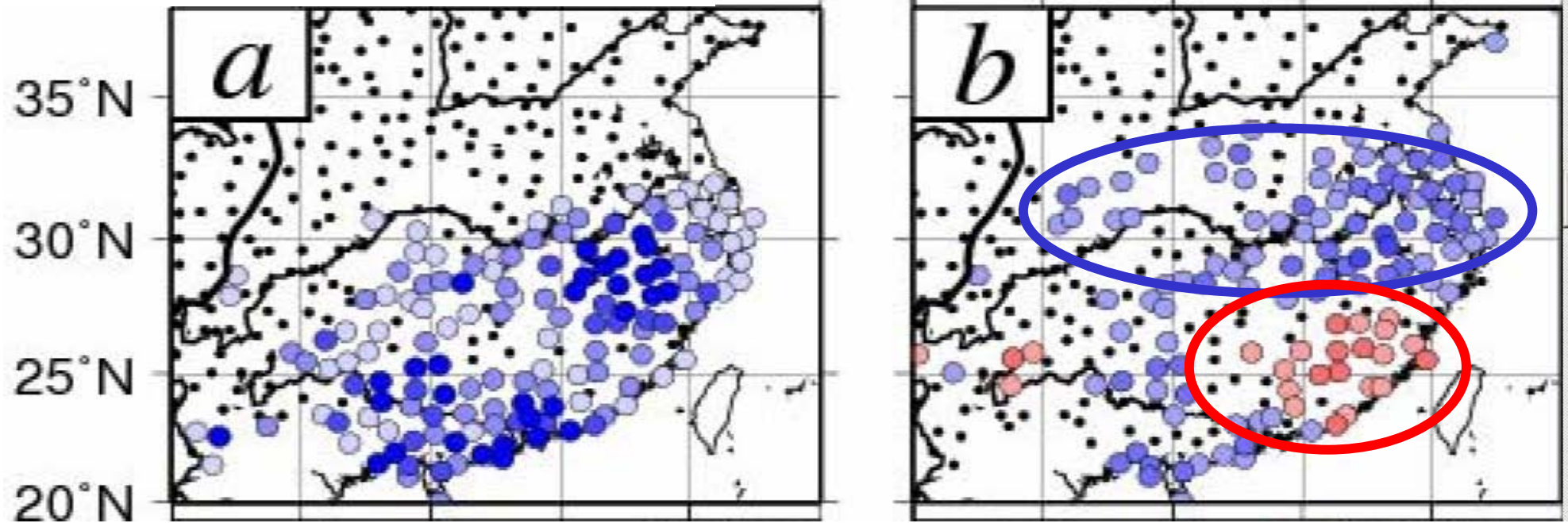


**Averaged Total Rainfall in June  
in 1990s (observed)**

**(1960s – 1990s)**



**decrease**



**increase**

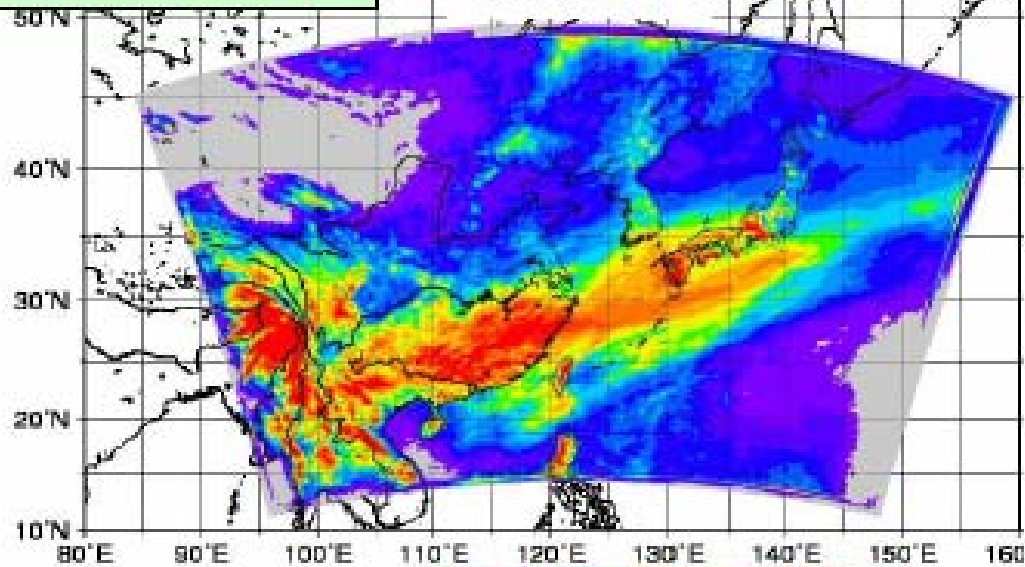
適応策におけるDIASの役割

CTL1990s

降水量

Control

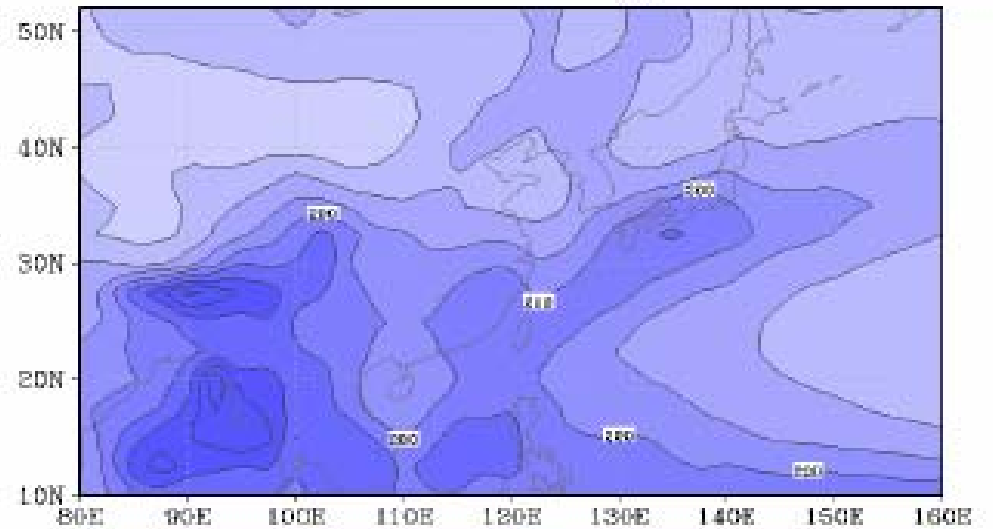
20km



20c3m(19

降水量

GCM1970-1999



PGW - CTL

降水量

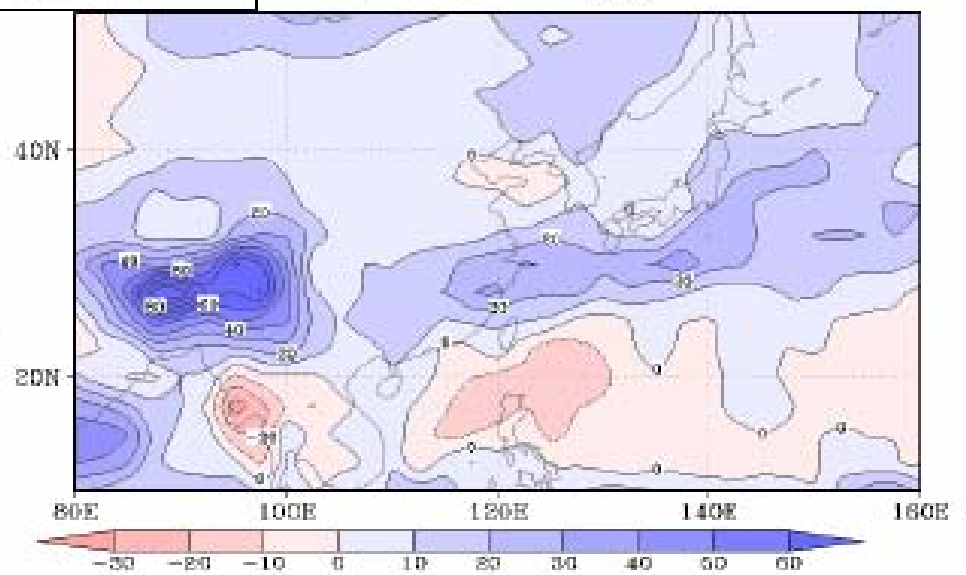
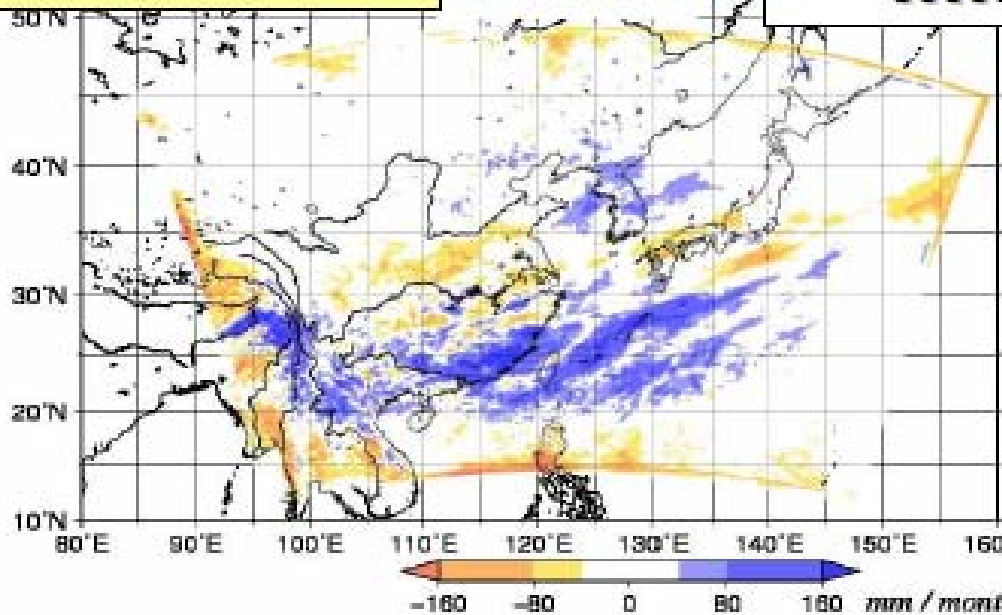
Control

MME6

9)-20)

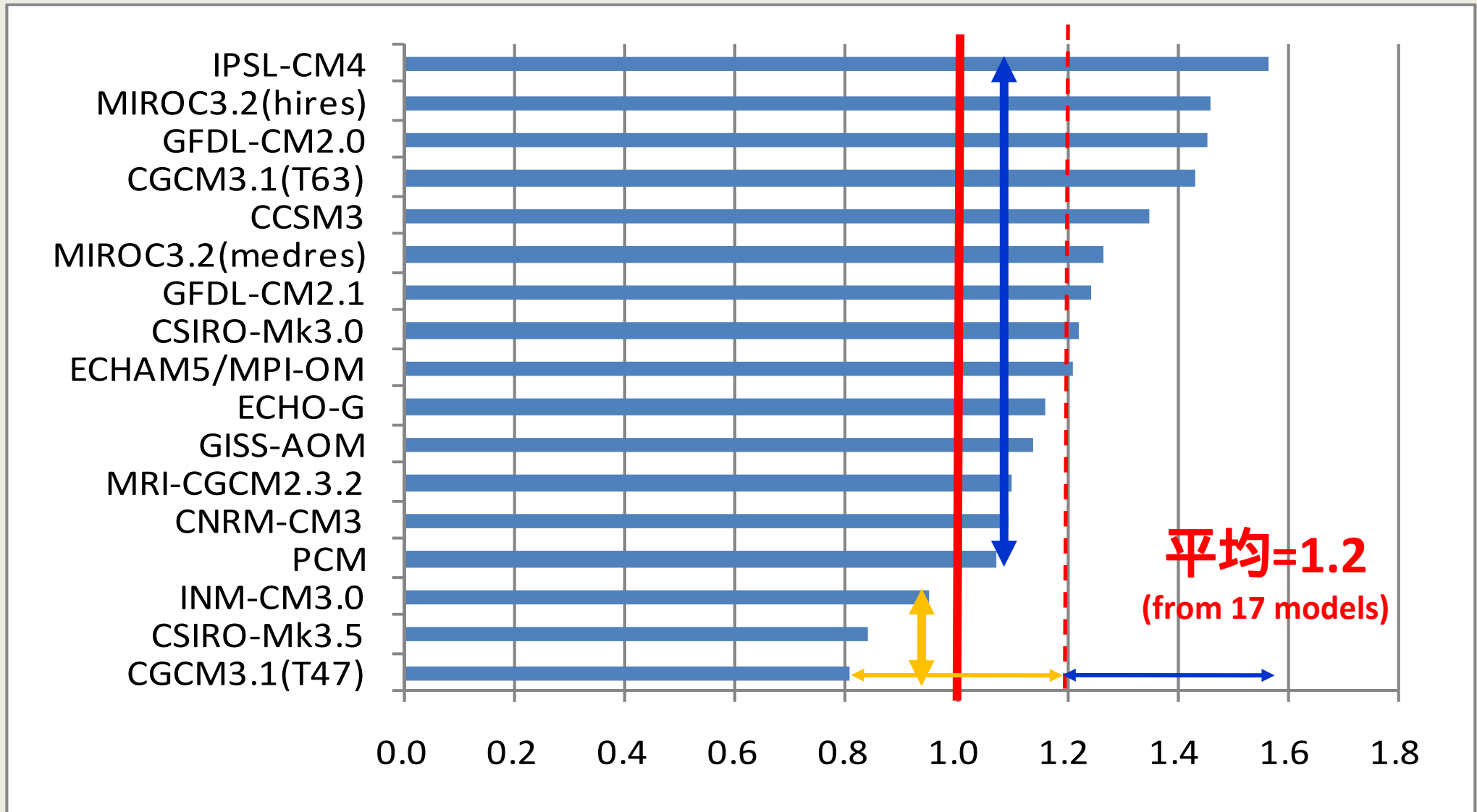
降水量

GCM 将来一現在

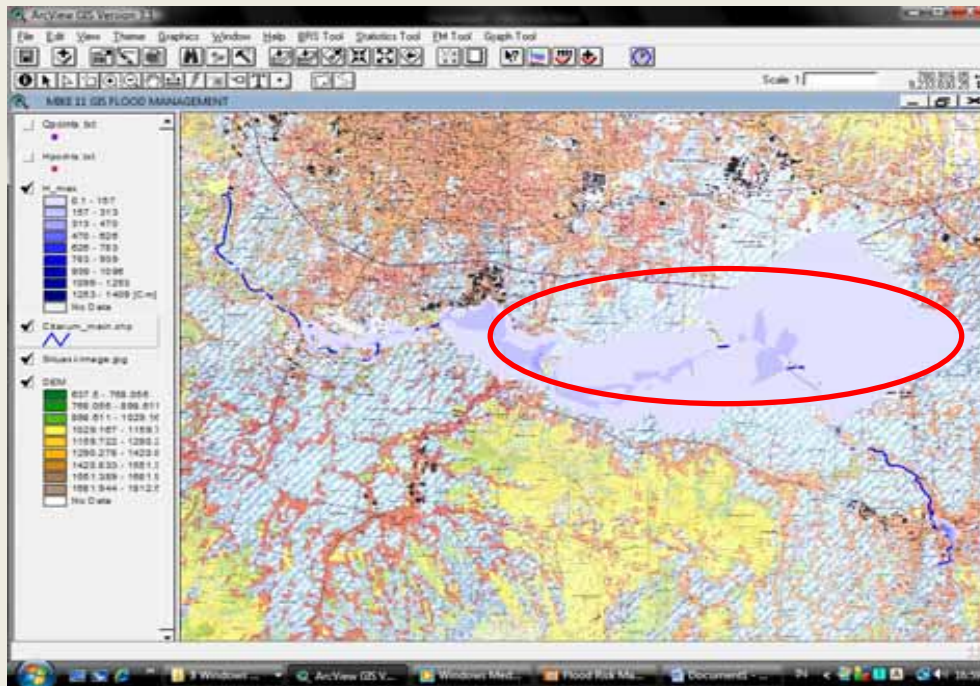


適応策におけるDIASの役割

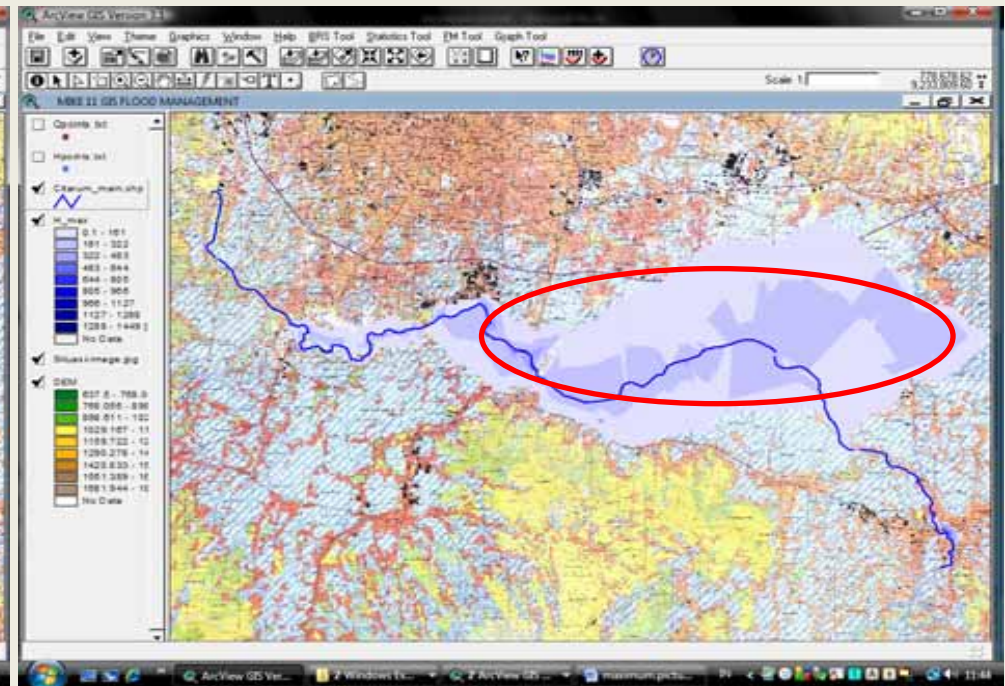
# A1Bシナリオに沿った17モデルの予測結果の 50年後の10年確率雨量の増加割合



# 氾濫解析結果



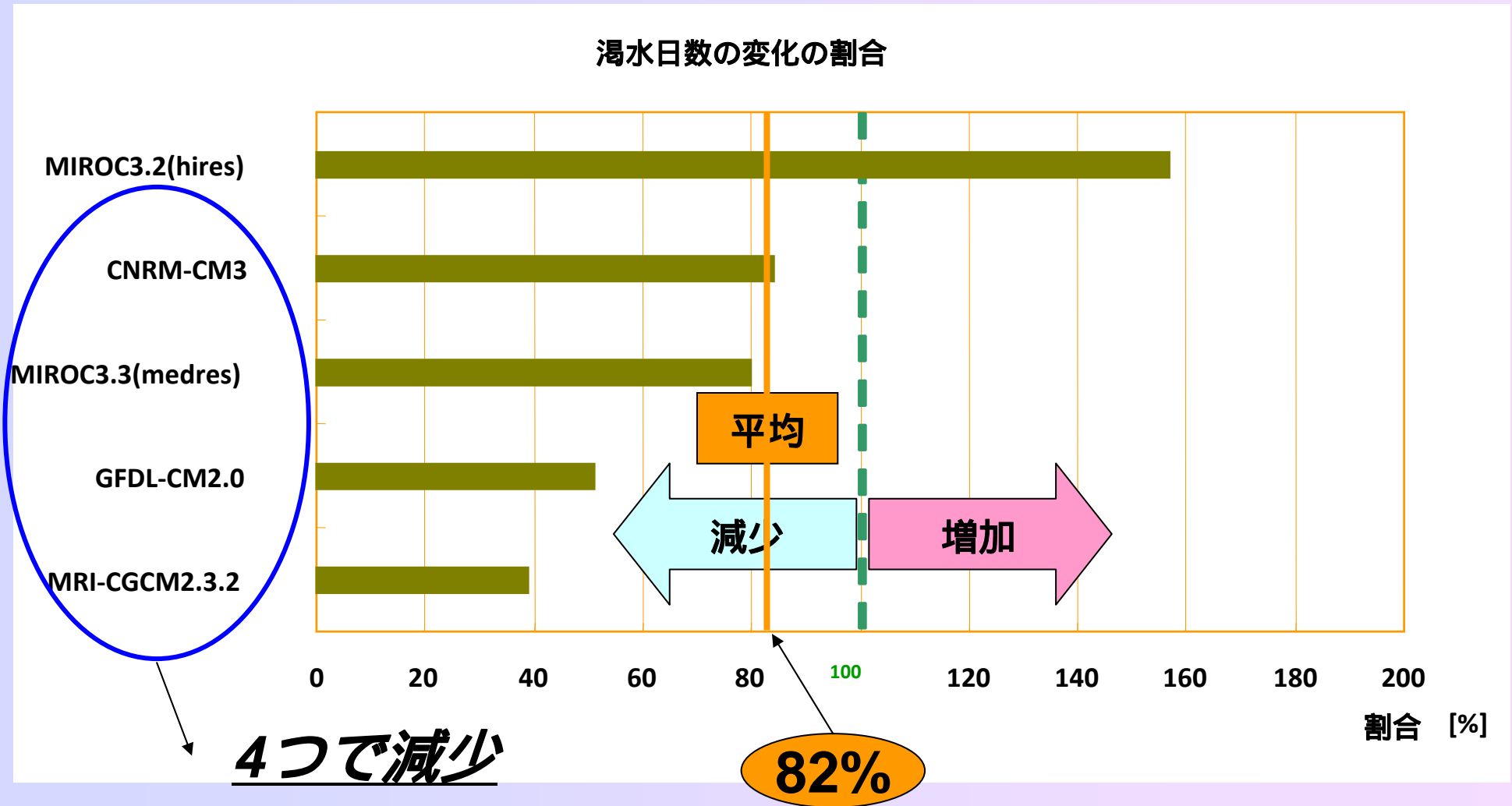
現在気候下での10年確率洪水



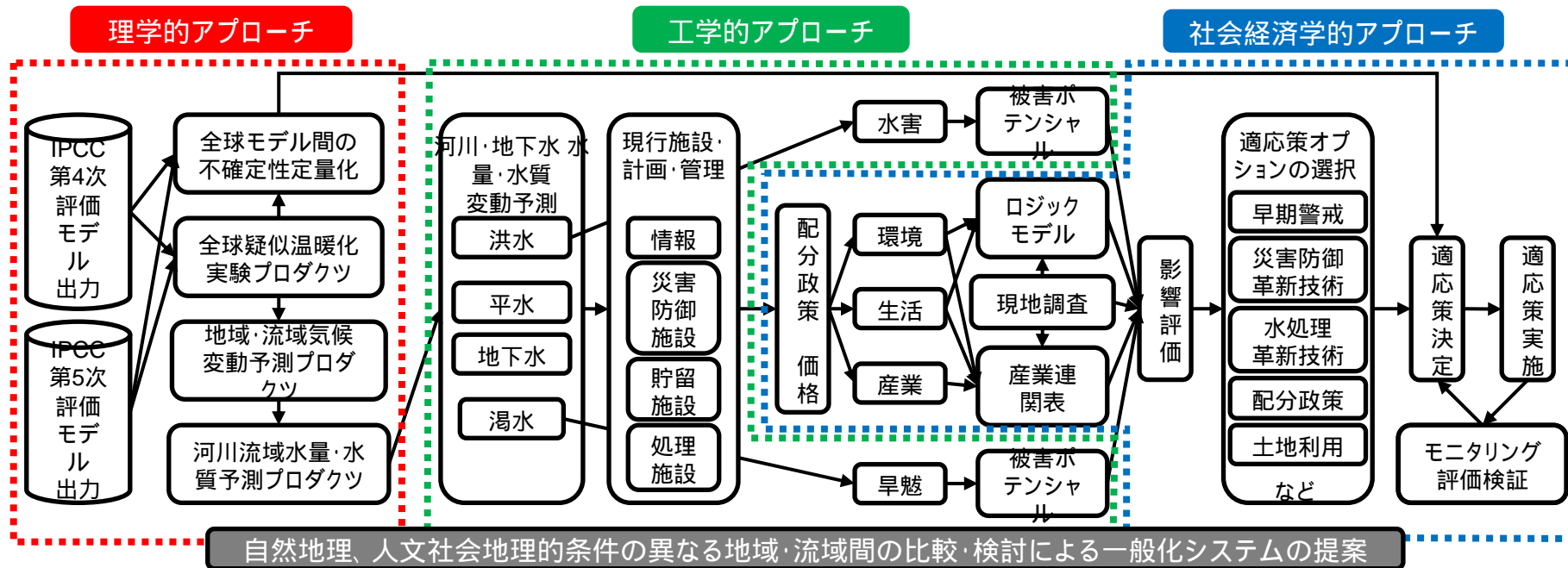
50年後の10年確率洪水

# 将来における渇水の評価

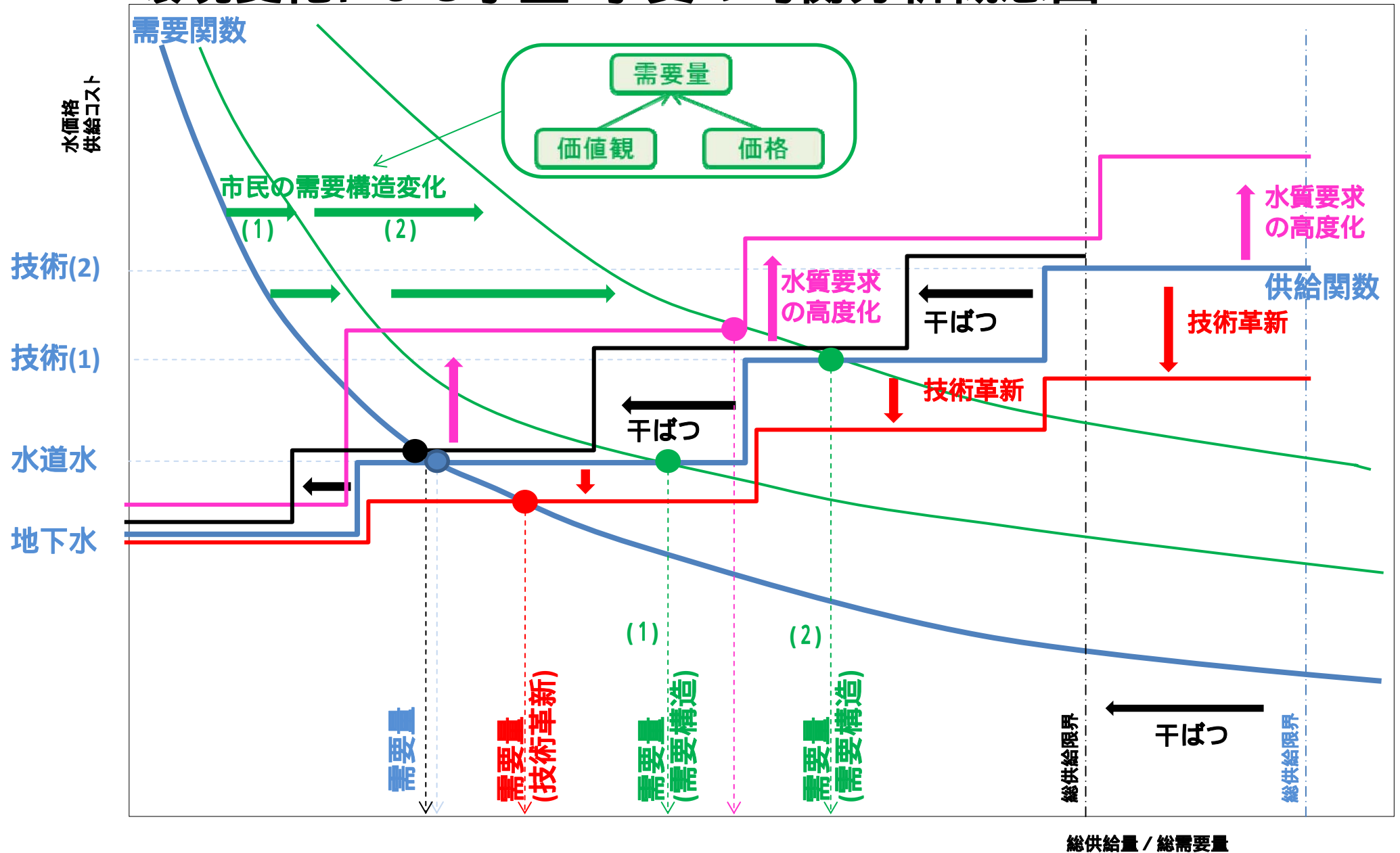
## 適応策におけるDIASの役割



# End to End の適応策(河川・水資源分野)



# 環境変化による水量・水質の均衡分析概念図



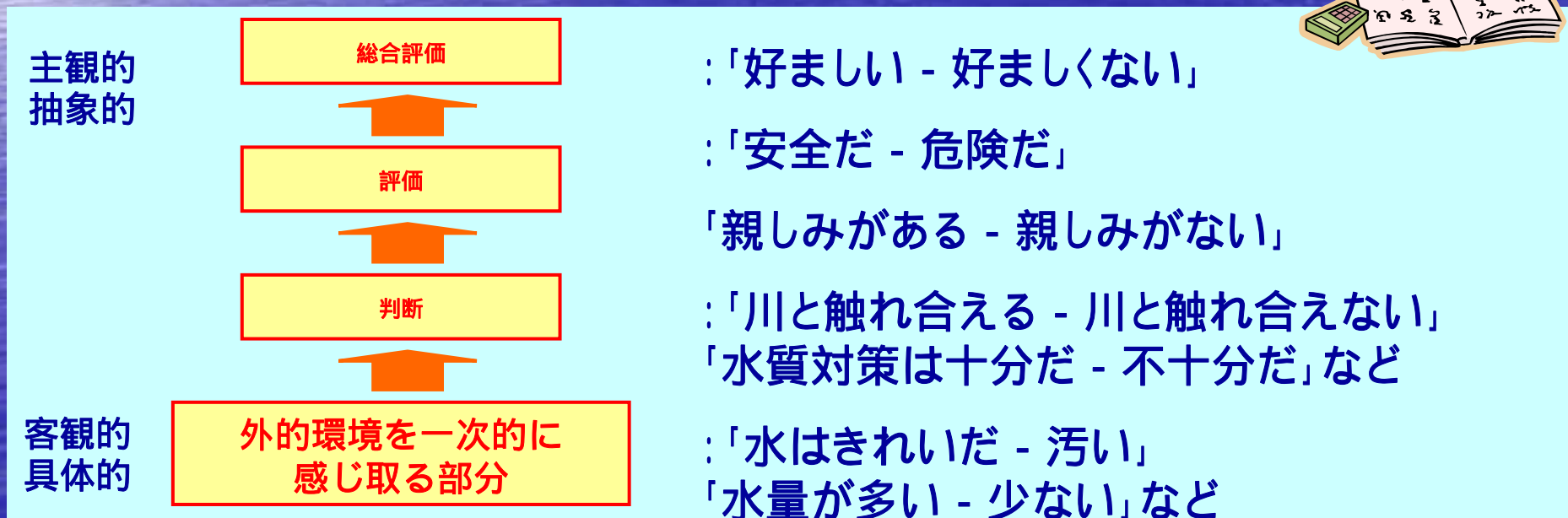
# 1. 評価構造調査

## 「評価構造調査」とは？

流域のみなさんは川をどのように感じ、どう評価しているか...？  
評価構造調査では、以下のような4つの階層があると想定して調査・分析しています。



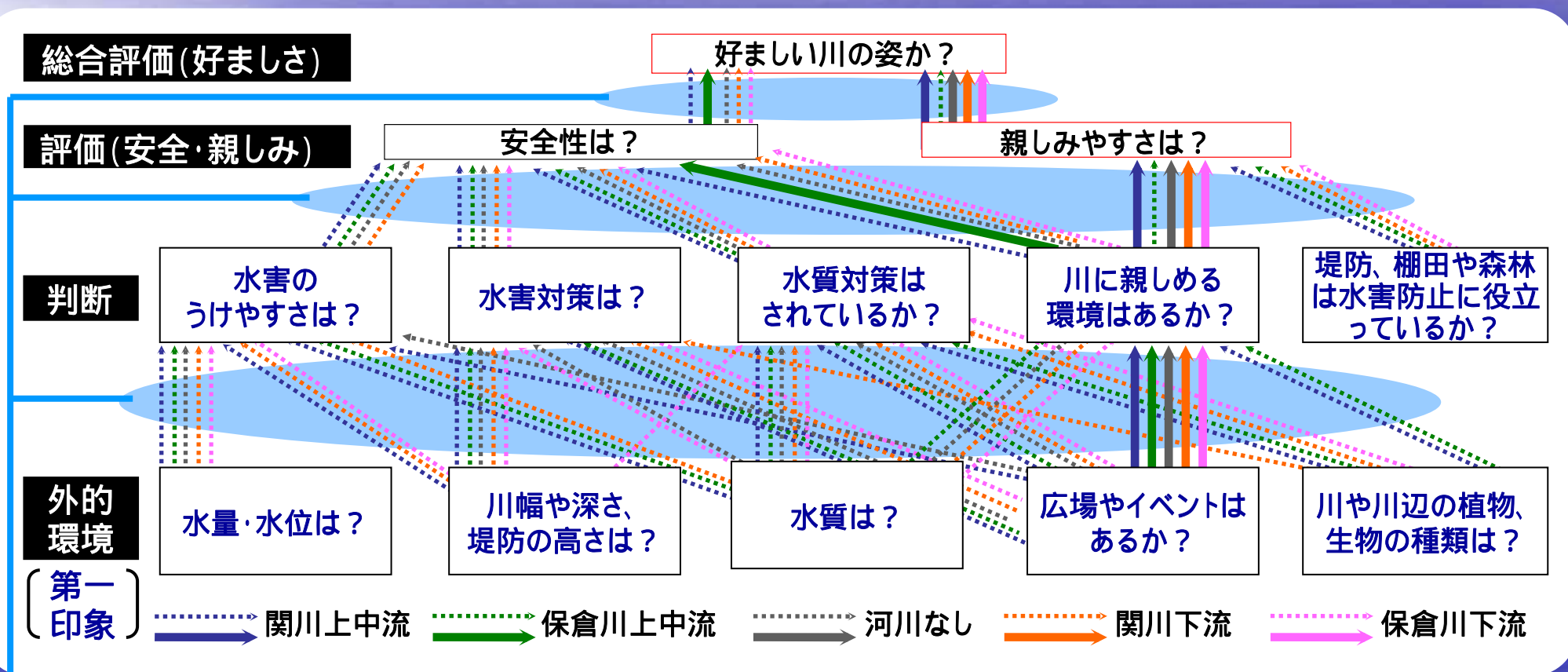
### ○ 河川評価の4つの階層 ○





# 流域住民のみなさんの川に対する評価の過程には多少の地域差があるが、主要な過程は共通している。

最も強い経路(太い矢印の流れ)は4地域で共通



矢印が交錯 = 外的環境からの判断は、上の2層間より地域差が大きい

## 2. 心理プロセス調査

# 「心理プロセス」とは？

流域のみなさんの川に対する知識・関心・行動の積極性と、その原因は...？

心理プロセス調査では、以下のような「5つの心理段階」と「5つの心の働き」があると想定して、分析します。

### ○ 5つの心理段階 ○

1. 「知識」： 対象を知っている段階  
(見たこと・聞いたことがある)
2. 「関心」： 対象に興味・関心がある段階
3. 「動機」： 対象に関わりたいと思う段階
4. 「行動意図」： 具体的に行動しようと思う段階
5. 「行動」： 実際に行動している段階

### 5つの心の働き

このままでは危ないと感じる  
「危機感」  
やらなくてはいけないと感じる  
「責任感」  
対策が有効であると感じる  
「有効感」  
実行できる機会があると思う  
「実行可能性」  
努力に見合った成果が得られる  
と思う「報われ感」

影響